

川越市農業振興計画改定版に基づく 主な事業の実施状況について

産業観光部 農政課

主な事業の実施状況について 目次

0	農業に関する情報の効果的な受発信	1頁	12	多面的機能支払交付金事業	16頁
1	主穀作振興	2頁	13	農地の保全と有効活用 その他の取組	17頁
2	鳥獣被害防止対策事業	3頁	14	グリーンツーリズム整備推進事業	19頁
3	農産物直売所・地場農産物消費促進事業	4頁	15	川越市農業振興計画改定版の指標	20頁
4	食料の安定供給の確保 その他の取組	5頁			
5	川越産農産物ブランド化事業	8頁			
6	サツマイモ振興	9頁			
7	武蔵野の落ち葉堆肥農法	10頁			
8	環境保全型農業の推進	11頁			
9	新規就農者育成総合対策（新規就農者支援）	12頁			
10	地域計画の策定	13頁			
11	多様な担い手の育成・確保の推進 その他の取組	14頁			

0 農業に関する効果的な情報の受発信

0 農業に関する効果的な情報の受発信

(1) 農業に関する効果的な情報の受発信

本市の農産物や市民農園など、市民に向けた本市での「農のある生活」に関する情報、来訪者に向けた体験や観光農園等グリーンツーリズムに関する情報などの発信。

川越市グリーンツーリズム 拠点施設

お知らせ

バーベキュー

カフェ

体験する

市内農園・農家情報

遊ぶ/遊ぶ

買う/買う

過去のイベント

その他

SWEET-POTATO

サツマイモ

川越市グリーンツーリズム・市内農園・農家情報・サツマイモ

荒幡農園
荒幡農園味が自慢の川越芋です。落ち葉堆肥法で土づくりからこだわっています。【営業日】9月中旬～1...

山田園
山田園天保より180年余続く農家で。芋掘り観光農園もあり、ご家族連れや団体様まで対応しています。【営業日】...

さかもとふあーむ
さかもとふあーむ【営業日】通年 天候や収穫量によって不定休の場合もあり
【営業時間】...

わくわくグリーンツーリズム通信 vol.26

伊豆原産の「川越市グリーンツーリズム拠点施設」より、各施設が「わくわく」を発信しています

おいしい川越産物
「おいしい川越」のロゴマークを見たことがありますか？ 野菜売り場で川越産産物にシールが貼ってあったり、川越産産物を使用している飲食店で見かけることができます。川越はサツマイモが有名ですが、ほうれん草や小松菜、かぶなども県内トップクラスの生産量です。市内の農家が心を込めて生産している農産物の魅力をたくさんの人に知ってもらい、地産地消を後押しするために2018年に作られたロゴマークです。

ログマークのシール
農産物に貼ってあるロゴマークシールは捨てずに、ぜひ集めてください！12月1日（日）ウェスタ川越交流広場で行われる「わくわくふるさと市場」のMarketで、集めたシールを抽選で「おいしい川越シールラリー抽選会」に参加できます。おいしい賞品が当たるかも！

Instagram
川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！

おいしい川越農産物提供店
川越産産物を使った所で配布中のバスポートを提示し、オリジナルメニューを提供する飲食店を「おいしい川越農産物提供店」として川越市が認定。現在23店舗があります。これらの店舗で、たいていスタンプラリーを実施中です。市内各

小江戸黒豚 鉄板焼石オノ
川越駅前1丁目180番23号506号
ランチ11:00～14:00 デイナー17:00～20:00
定休日：水曜日・祭日 上記は予約時間

農家カフェ ましゅまじゅ
川越駅前1丁目180番23号506号
11:00～14:30（ラストオーダー14:00）※事務予約
定休日：日・月・水・木・金・土・日・祭日 上記は予約時間

川越でグリーンツーリズムしない?

「川越のグリーンツーリズム」では、四季折々の花や伊豆沼の自然に恵まれ、いちご狩りやサツマイモ掘りなどの農業体験で、川越産の新鮮な農産物を味わって、直売所でお買い物や農の町の観光も可能です。川越に宿泊し、グリーンツーリズムを楽しんでみませんか？

DAY 1

- 13:00 川越駅 → 13:30 蔵づくりの町並み観光
- 14:00 川越駅 → 14:30 川越市川越、川越城本丸御殿、番多院、町の鐘などをめぐる
- 15:00 川越駅 → 15:30 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 16:00 小江戸黒豚 KASHIYAMA 日帰り入浴
- 17:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 18:00 小江戸黒豚 KASHIYAMA 日帰り入浴
- 19:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 20:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！

DAY 2

- 10:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 11:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 12:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 13:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 14:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 15:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 16:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 17:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 18:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 19:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！
- 20:00 川越産産物ブランドを連携してInstagramのアカウント「おいしい川越」で、川越産産物の魅力を発信しています。フォローして川越産産物の応援をお願いします！

わくわくグリーンツーリズム通信や川越でグリーンツーリズムしない？等の川越の農業や農産物についての魅力をグリーンツーリズム拠点施設から発信している。

現在、グリーンツーリズム拠点施設の業務委託を受けている企業がホームページ上で、市内農園や農家情報について発信を行っており、Instagramでは農家取材した情報を発信している。

1 主穀作振興

1 食料の安定供給の確保

(1) 安定した農業経営の確立

米価の安定と食料自給率の維持向上を図る国の経営所得安定対策の推進、米粉用米や麦等の転作作物、優良な主穀種子の生産、農業集団化へ助成等を行う。川越市の農地の約2/3を占める水田を将来に渡って維持し、水田農業の振興を図る。

1 経営所得安定対策の推進

経営所得安定対策の実施団体となる川越地域農業再生協議会の事務局として、申請書の取りまとめや現地調査、生産の目安の配分などを行う。

- ・畑作物の直接支払交付金(ゲタ) 実績:10者
- ・米・畑作物の収入減少影響緩和交付金(ナラシ) 実績:14者
- ・水田活用の直接支払交付金 実績:42者

2 水田麦等作付け奨励補助金

水田において戦略作物(麦、大豆、飼料作物、米粉用米等)を作付した場合に、面積に応じて交付

3 水田農業集団化促進事業費補助金

集落集団営農組織の編成又は育成に対し補助する事業種子、資材、肥料、薬剤等への補助(事業費の1/3以内)

4 主要農作物採種事業補助金

採種を行う農業者の組織の強化又は必要な機械、施設等の整備及び農薬、肥料等に対する補助(事業費の1/2以内)

※作付面積:彩のきずな:360a(令和4年)、390a(令和5年)、390a(令和6年)

●川越カントリーエレベーター集荷価格(概算金)(円)(コシヒカリ玄米60キロ当たり) ●過去3年間の事業費(円)

令和5年	12,000	令和4年度支出額	8,814,000
令和6年	16,600	令和5年度支出額	7,452,000
令和7年	23,300	令和6年度支出額	7,001,000

※令和7年については8月中旬時点であり、販売情勢に応じて、概算金の追加払い及び精算払いを実施するため、価格は変動する。

【課題】

昨今の米の値上がりにより、米粉用米や飼料用米から主食用米へ生産転換する農業者が増えることが予想され、その場合は取引価格が大きく下がる可能性もあるため、国の政策や市場の動向を注視することが重要である。

【令和7年度取組予定】 予算額 5,358千円

1 農業再生協議会

・生産の目安 6,449t (面積換算1,319ha)

2 水田麦等作付け奨励補助事業

・麦類、大豆 8,700円(10a当たり)

・飼料作物 5,800円(10a当たり)

・米粉用米、飼料用米 6,960円(10a当たり)

※二毛作の場合 4,350円(10a当たり)

2 鳥獣被害防止対策事業

1 食料の安定供給の確保

(1) 安定した農業経営の確立

野生鳥獣による農産物の被害防止対策を総合的に推進するため、平成27年5月に市と関係機関（JAいるま野ほか）で構成する「川越市鳥獣被害防止対策協議会」を設立している。協議会は、アライグマ捕獲従事者養成研修会や電気柵設置講習会を開催するとともに、市の被害防止計画で対象鳥獣をアライグマ・ハクビシン・タヌキとして捕獲を支援し、農作物被害の減少を図っている。

協議会の事業

川越市鳥獣被害防止計画対象鳥獣の捕獲の支援
(アライグマ・ハクビシン・タヌキ)

アライグマ捕獲従事者養成研修会の開催

電気柵の正しい使用方法の普及活動
(講習会の開催など)

捕獲従事者養成研修会



- ・アライグマは雑食性で何でも食べるが、特に甘いものを好むためブドウやトウモロコシ、スイカをはじめとする糖度の高い農産物の被害が多い。
- ・市内ではアライグマの捕獲が最も多く、古谷地区が最多である。
- ・主には箱わな設置と電気柵設置で対応しているのが現状。

● 捕獲頭数の推移

	アライグマ	ハクビシン	タヌキ	合計
令和4年度	250	22	23	295
令和5年度	244	26	38	308
令和6年度	280	18	36	334

● 過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	5,092,825
令和5年度支出額	4,088,744
令和6年度支出額	4,400,000

● 新規捕獲従事者数の推移

令和5年度	51人
令和6年度	47人

※令和6年度末捕獲従事者数564人

【課題】

- ・捕獲頭数の高止まりが続き、今後も継続的取組が必要である。
- ・捕獲従事者数に対し、箱ワナ数が足りていない状況である。また、箱ワナの保管場所が足りない状況であり、保管場所の確保が必要である。

【令和7年度取組予定】 予算額4,750千円

- 川越市鳥獣被害防止計画対象鳥獣の捕獲の支援 : 随時
- アライグマ捕獲従事者養成研修会の開催 : 年3回
- 電気柵設置講習会の開催 : 年1回

3 農産物直売・地場農産物消費促進事業

1 食料の安定供給の確保

(2) 地産地消の推進

庭先販売所を含む農産物直売所の設置やPRなどの運営支援を行うとともに、スーパーマーケットにおける川越産農産物の提供促進などにより、川越産農産物の地域内での流通を図る。

1 庭先販売・直売所マップ「川越プチマルシェ」による農産物PR

令和6年度に庭先販売所、農産物直売所の情報を掲載したマップの更新を行い、市民センター、ウエスタ川越、観光案内所等、市民の方以外も手にとれるよう設置し、川越産農産物のPRを図った。また、市ホームページにプチマルシェ掲載の米販売農家の情報を公開した。



庭先販売・直売所マップ
～川越プチマルシェ（表紙）

【課題】

- ・川越産農産物を提供する場所について、より周知を図り、流通を拡大させる必要がある。
- ・参加人数が少ない伝統野菜の収穫体験について、より周知を図る必要がある。

プチマルシェ掲載農家数等

- ・農家数: 47
- ・直売所: 3
- ・おいしい川越農産物提供店: 24

2 学校給食広報誌関係

- ・献立表(3回): 献立に合わせた川越産農産物のトピックスを掲載。
- ・給食だより(1回): プチマルシェの二次元コードを掲載。

3 グリーンツーリズム拠点施設における伝統野菜の収穫体験

【令和6年度実績】

- ・里芋収穫体験(参加人数220名)
- ・さつまいも栽培体験(参加人数13名)
- ・さつまいも収穫体験(参加人数1,147名)
うち、紅赤の収穫体験(参加人数42名)
- ・西町大根収穫体験(参加人数73名)

【令和7年度取組予定】 予算額 0千円

○学校給食広報誌関係

- ・献立表: 献立に合わせた川越産農産物のトピックスを掲載予定。
- ・給食だより: プチマルシェ・いも掘り観光案内マップの二次元コードを掲載予定。

※農産物直売・地場農産物消費促進事業事業については、今後他事業と統合予定。

4 食料の安定供給の確保 その他の取組 1/3

1 食料の安定供給の確保

(1)安定した農業経営の確立

畜産振興

・令和4年度支出額	1,206,394円
・令和5年度支出額	1,091,493円
・令和6年度支出額	601,372円
・令和7年度予算額	954,000円

- ・家畜伝染病予防法に基づき実施した牛、豚の検査や予防注射及び畜舎消毒に要する経費に対し助成。
- ・家畜の改良を推進し、優良種畜生産並びに能力の向上を図るため、人工受精用精液、優良牛・豚の導入に対し助成。
- ・畜産経営の安定を図るため、飼料作物の種子購入費を助成。

(1)安定した農業経営の確立

農業制度資金利子補給

・令和4年度支出額	437,410円
・令和5年度支出額	373,904円
・令和6年度支出額	497,881円
・令和7年度予算額	602,000円

- ・農業近代化資金利子補給
農業経営の近代化を図ることを目的とした農業機械等の導入及び施設整備に係る借入に対して利子の一部を助成。
※新規借入1件。
- ・農業経営基盤強化資金利子助成
農業経営の規模拡大やその他の経営展開を図ることを目的とした農地取得等に係る借入金に対して利子の一部を助成。

4 食料の安定供給の確保 その他の取組 2/3

1 食料の安定供給の確保

(1) 安定した農業経営の確立 スマート農業導入促進



ドローンによる農薬散布の様子

国は農業者の高齢化や後継者不足などからロボット、AI、IoT等の情報通信技術を活用した「スマート農業技術」により、農作業の効率化、農作業における身体の負担の軽減、農業の経営管理の合理化による農業の生産性の向上の効果을上げるためスマート農業に力をいれている。

このような状況を踏まえ本市においてもスマート農業の推進を図るため、スマート農機の購入や作業委託に関して助成できるよう、令和5年度に補助事業の要綱を改正した。

①【スマート農業に係る補助内容】

- ・スマート農業技術導入事業(購入)(実施主体:農業経営体3者以上で組織された集団又は法人):実績1団体(アシストスーツ)
- ・スマート農業技術導入事業(作業委託)(実施主体:農業経営体3者以上で組織された集団、法人又は個人の農業経営体):実績2団体(ドローンによる農薬散布作業委託費)

②スマート農業講習会(令和6年11月7日、グリーンツーリズム拠点施設にて開催。30名出席)市内の農業者を対象にした講習会を開催し、スマート農業技術の導入効果・採算性・活用方策の説明を行ったほか、散布用ドローン・リモコン草刈り機の実演などを行い、スマート農業の導入促進を図った。



講習会の様子

4 食料の安定供給の確保 その他の取組 3/3

1 食料の安定供給の確保

(3) 農産物の安全・安心の確保

食品表示法等に係る事業

・予算措置なし

食品表示法やJAS法に基づき、農業者や小売業者等への指導を行っている。

- ・令和5年度指導回数：1回
- ・令和6年度指導回数：3回

(4) 食品流通の支援

地方卸売市場を通じた生鮮食料品流通支援

・予算措置なし

埼玉川越総合地方卸売市場を通じ、市民への生鮮食料品の安定供給に寄与した。

埼玉県南西部地域の生鮮食料品等の安定的供給を目的とし、川越市を含む近隣市町等の出資により平成6年5月にオープンした市場。近年は、食品関連事業者の誘致や一般消費者向けの市場開放や小売施設「生鮮漁港川越」とバーベキュー施設の運営のほか、令和7年2月「漁港食堂」がオープンし、より多様な機能を持った市場としての運営を行っている。

平成31年4月にオープンした生鮮漁港川越
一般消費者を対象とした小売りも行っている



(1) 市場取扱状況(令和6年度)

	取扱数量(t)	取扱高(千円)
青果物	14,191	3,494,177
水産物	1,437	1,557,929
計	15,628	5,052,106

(2) 一般消費者向けのイベント

	来場者数(人)
お客様感謝市 (毎週土曜開催)	81,780
年末大開放市 (年末5日間)	12,500

(3) その他

- ・小学生社会科見学受入
29校2,383人
- ・生鮮漁港川越
生鮮産品を取扱う小売り
施設が場内に整備されている。

5 川越産農産物ブランド化事業

2 農産物のブランド化の推進

(1) 川越産農産物のブランド構築

川越産農産物ブランド化に向けて、平成28年度に設立され、市内農業者、商業者等で構成する川越産農産物ブランド化連絡会との協働でさまざまな取組を実施する。

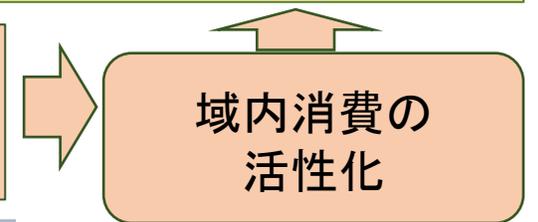
【主な取組】

- ・川越産農産物のロゴマークの普及を図る。
【令和5年度】ロゴシール:822,000枚、のぼり旗:38枚
【令和6年度】ロゴシール:746,000枚、のぼり旗:15枚
- ・くらしをいろどるFarmer's Market開催
令和5年度:来場者数1万8,000人(令和5年12月3日ウエスタ川越)
令和6年度:来場者数1万9,000人(令和6年12月8日ウエスタ川越)
 - ・11月17日、県庁朝市にてサツマイモ販売を実施。
 - ・障害者施設の協力を得て、市内農家の農産物を市内飲食店へ配達する事業の実施に向け試験的に行った。
- ・伝統的農産物の振興
伝統的な川越いもである「紅赤」や川越発で大正末期から昭和30年代にかけて全国的に有名であった「西町大根」をPRするため、収穫体験等PRを行った。

【農産物ブランド化 目的】

川越産農産物の付加価値や知名度の向上を図ることによって、川越の農業振興と農業全体の活性化を目指すこと。

- ・ロゴマークの普及、啓発
- ・異業種交流会
- ・イベント等による



【課題】

- ・飲食店での食材や加工品の原材料として川越産農産物の利用拡大
- ・川越産農産物の市外への発信
- ・さまざまな取組を川越産農産物の付加価値の向上につなげる

●過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	1,500,000
令和5年度支出額	1,100,000
令和6年度支出額	1,550,000

【令和7年度取組予定】 予算額 1,498千円

- ・おいしい川越ロゴグッズの配布
- ・異業種交流会の開催
- ・くらしをいろどるFarmer's Marketの開催協力
- ・市外直売イベントへの参加

6 サツマイモ振興

2 川越産農産物のブランド化の推進

(1) 川越産農産物のブランド構築

市内農業者で構成する川越いも研究会や商業者、飲食業者で構成する川越サツマイモ商品振興会などとの協働により、歴史ある川越産のサツマイモの生産振興とPRを行う。

【主な取組】

- 川越産「紅赤」を使用した「いも蜜」の開発協力。
- 令和元年12月1日新たにオープンしたサツマイモまんが資料館について、PR等のサポートを実施。
- 毎年10月13日に開催されるいも供養に参加
- 令和2年より開催しているいも神事「献芋式」での協力
- 11月17日県庁朝市にてサツマイモ販売を実施。
- グリーンツーリズム拠点施設での芋ほり体験実施によるPR

【課題】

- 川越の伝統野菜「紅赤」について、一定の生産量の確保を図っていく必要性
- 歴史ある川越観光の「芋ほり」の保存
- 川越産サツマイモの生産量拡大と市内での流通促進



市民等に人気のある芋ほり体験



サツマイモまんが資料館での展示

●過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	0
令和5年度支出額	246,400
令和6年度支出額	0



いも神事で紅赤PRとしていも茶を配布

【令和7年度取組予定】 予算額 なし

- いも供養やいも神事「献芋式」への参加・協力によるPR。
- サツマイモの域内流通調査。

7 武蔵野の落ち葉堆肥農法

2 川越産農産物のブランド化の推進

(1) 川越産農産物のブランド構築

武蔵野台地に位置する川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町は火山灰土に厚く覆われ作物が育ちにくい土地だったが、江戸時代から多くの木を植えて平地林(ヤマ)として育て、木々の落ち葉を掃き集め、堆肥として畑に入れて土壌改良を行ってきた。こうして300年以上に渡り続けられてきた伝統農法を「落ち葉堆肥農法」とよぶ。この「落ち葉堆肥農法」は今も受け継がれ、それにより平地林は各市町全域にその面影を多く残し、育成・管理されて景観や生物の多様性を育むシステムが作られている。

この「落ち葉堆肥農法」を、将来に受け継がれるべき伝統的な農業システムであるとして、武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会(川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町、いるま野農業協同組合、埼玉県川越農林振興センターを構成員とする協議会)は、世界農業遺産に認定申請し、令和5年7月5日に世界農業遺産として認定を受けた。

認定後の取り組み(令和6年度)

【協議会活動状況】①総会開催(4/25)、②各種イベントに参加し落ち葉堆肥農法のPR活動、③世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」ロゴマーク使用基準作成、④東アジア農業遺産学会への参加、⑤実践農業者落ち葉堆肥農法保全補助金交付事業

【市】①総会参加(4/25)、②各協議会への負担金交付、③落ち葉掃き体験の実施、④実践農業者落ち葉堆肥農法補助金交付申請受付、⑤農業ふれあいセンターまつり時に落ち葉堆肥農法のPR(横断幕活用)、⑥森林環境譲与税を活用したナラ枯れ防除支援補助金の実施、⑦グリーンツーリズム拠点施設での落ち葉掃き体験及び堆肥の切り返し体験を実施

【課題】

世界農業遺産に認定されたことについて、落ち葉堆肥農法を後世に伝え、農業への関心を深めるきっかけとするためにも広く市民に周知する必要がある。また、その伝統農法を今後も継続するためにも後継者の育成や平地林の保全が必要。

●過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	400,000
令和5年度支出額	686,785
令和6年度支出額	600,000



落ち葉掃きの様子

【令和7年度取組予定】

予算額

・三富地域農業振興協議会負担金	200,000円
・世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥推進協議会負担金	400,000円
・ナラ枯れ対策関連予算	5,000,000円

2 農産物のブランド化の推進

(3)環境と調和のとれた食料システムの促進

8 環境保全型農業の推進



環境保全型農業「フェロモントラップ」

●環境保全型農業とは、「農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業のこと」である。

環境保全型農業を行うにあたり、必要な機械、施設及び資材を整備し、農業者団体に対し、補助金(事業費の1/2以内)を交付する。

①下赤坂畑灌組合(フェロモントラップ) 33,390円(事業費66,780円)

畑地かんがい施設の実施により、野菜生産技術の改善と生産体制の整備及び経営の安定と地域農業の発展を目的としている団体。

②いるま野農業協同組合(生分解性マルチフィルム)1,378,515円(事業費3,757,564円)

③松原地区環境保全型推進組合(有機肥料散布機) 309,090円(事業費618,181円)

福原地区にて緑肥を活用した農業に取り組み、地力増進、化学肥料低減による環境保全型農業を取組むことを目的としている団体。

●砂塵防止用小麦関係

砂塵防止用及び緑肥として希望者に無料配布を行った(93者。1,774kg)。

【課題】

環境保全型農業の実現のためには、化学肥料や化学農薬の使用量の削減が必要である。しかし、化学農薬等を使用しないことに伴い、雑草が増えるため除草に時間がかかることや周りの農家への配慮等が必要である。また、手間の費用を価格に反映していくことが必要である。

【令和7年度取組予定】

予算額 1,846,000円

・環境保全型農業推進事業費補助金 1,710,000円

・砂塵防止用小麦関係 136,000円

9 新規就農者育成総合対策(新規就農者支援)

3 多様な担い手の育成・確保の推進

(1) 多様な担い手の支援

農業経営を開始して間もない新規就農者の経営安定に向けて支援を行っている。令和6年度は5名の就農者への補助を行っている。

【農業次世代人材投資事業】 ※令和3年度採択者まで

次世代を担う農業者となることを目指し、独立・自営就農する認定新規就農者に対し、資金を交付する。

交付対象者：農業経営を始めて間もない青年就農者等(独立・自営就農時49歳以下、
その他要件あり)

交付額：経営開始1～3年目150万円(年)
経営開始4～5年目120万円(年)※1

※1 令和2年度採択までは最大150万円×5年間

【新規就農者育成総合対策】 ※令和4年度～

経営発展、資金面での支援、またサポート体制を構築し、新規就農者を支援する。

・経営開始資金の補助

対象者：農業経営を始めて間もない青年就農者等(独立・自営就農時49歳以下、
その他要件あり)

支援額：12.5万円/月(150万円/年)×最長3年間

【川越市の状況】

- ・令和4年度 新規就農者育成総合対策※採択者 0名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 2名 (露地野菜)
- ・令和5年度 新規就農者育成総合対策※採択者 0名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 1名 (露地野菜)
- ・令和6年度 新規就農者育成総合対策※採択者 2名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 0名
- ・令和7年度 新規就農者育成総合対策※採択予定者 4名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 0名

※令和4年度以降、新規就農者の経営開始にかかる補助事業は、新規就農者育成総合対策となりました。

【課題】

- ・就農者の営農が成り立つ規模の農地の確保や実現可能な営農計画に向けたサポート体制の確立
- ・地域とのコミュニケーション、調和

●過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	3,750,000
令和5年度支出額	4,500,000
令和6年度支出額	10,200,000

【令和7年度取組予定】 予算額 7,200千円

- ・新規就農相談会の実施
(埼玉県農業大学校、農業ふれあいセンターまつり)
- ・いるま地域明日の農業担い手育成塾への入塾等の支援
- ・新規就農者への経営開始資金の交付及びサポート

10 地域計画の策定

3 多様な担い手の育成・確保の推進

(2) 地域計画の策定と取組促進

【人・農地プラン】

農業における高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、人と農地の問題を解決するための「人・農地プラン」を市内の旧農協支店単位全12地域で策定しており、さらに令和3年度までに、より実効性のある計画として、人・農地プランの実質化※が全12地域で完了している。



【地域計画】

地域計画は令和5年4月に施行された農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い人・農地プランを地域計画として法定化したもの。これまでの人・農地プランに加え、地域での話し合いにより、将来、だれがどの農地を耕作していくのかといった、より具体的な地図(目標地図)を作成することが必要で、令和7年3月31日に全12地域で策定・公告が完了した。

○地域協議会の設置

- ・地域計画は、毎年度進捗管理を行い、必要に応じて更新等を行う必要があるため、各地域に協議会を設置している
- ・全12地域で協議会を設置し、地域計画について話し合い等を行う
- ・地域全体からまんべんなく招集し、地域全体の意見が反映できるようにする

※協議終了地域: R5年度→4地域
R6年度→8地域

○協議会での検討事項

- ・地域の課題
- ・地域の将来方針
- ・目標地図の検討 等

※実質化した人・農地プランとは「アンケートの実施」「現況把握」「今後地域の中心となる経営体(中心経営体)への農地の集約化に関する将来方針の作成」の3つの工程を経たもの。

【課題】

- ・計画策定後も随時、必要に応じた計画の見直しを行うことが重要
- ・計画策定後の地域での実際の取組が重要
- ・多様な担い手によって、地域の農業を支えていく取組となるよう協議を進める



●過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	0
令和5年度支出額	52,594
令和6年度支出額	99,884

【令和7年度取組予定】 予算額 320千円
地域計画の変更(全12地域)年2回程度を予定

- ・ 令和7年7月9日更新・公告
- ※農業振興地域からの除外等に伴う目標地図の変更
- ・ 令和8年1月頃更新・公告予定

3 多様な担い手の育成・確保の推進

11 多様な担い手の育成・確保の推進 その他の取組

(1)多様な担い手の支援

農業研究団体連合会組織運営事業

- ・令和4年度支出額 102,024円
- ・令和5年度支出額 452,263円
- ・令和6年度支出額 400,000円
- ・令和7年度予算額 243,000円

青年農業者組織活動支援事業

- ・令和4年度支出額 79,990円
- ・令和5年度支出額 97,000円
- ・令和6年度支出額 87,000円
- ・令和7年度予算額 83,000円

(1)川越市農業研究団体連合会

組織活動を通じた農業者の資質向上を図るため、鴨田体験農園組合、川越市葡萄生産組合、川越いも研究会、芳野野菜栽培者協議会、農事組合法人沼端で組織する川越市農業研究団体連合会の運営を支援している。



視察研修会の様子

(2)青年農業者組織活動支援事業

青年農業者間の交流及び農業技術・経営の向上の為に必要な組織活動を通じ、将来の担い手となる青年農業者の育成を図るために支援を行う。

- ・青年農業者組織:川越市4Hクラブ(18~30歳の農業者、11名)

(2)農地中間管理事業の取組促進

農地中間管理

- ・令和5年度支出額 10,074円
- ・令和6年度支出額 6,749,708円
- ・令和7年度予算額 24,698,000円

農地中間管理事業は、「農地中間管理事業の推進に関する法律」(平成25年法律第101号)に基づき、農地中間管理機構※(以下、「機構」という)が貸付を希望する農地の所有者から農地を借り受け、耕作を希望する農業者に貸し付ける事業等を行うものであり、まとまった農地を機構に貸し付けることにより、貸し付けた農地の割合に応じて国から「地域集積協力金」が交付される事業。

本市においては令和6年度に古谷本郷上地区において3,059アールを機構に貸付ける事業を行ったことにより6,729,800円の協力金の交付を受け、作業委託費等として活用し、地域農業に役立てている。

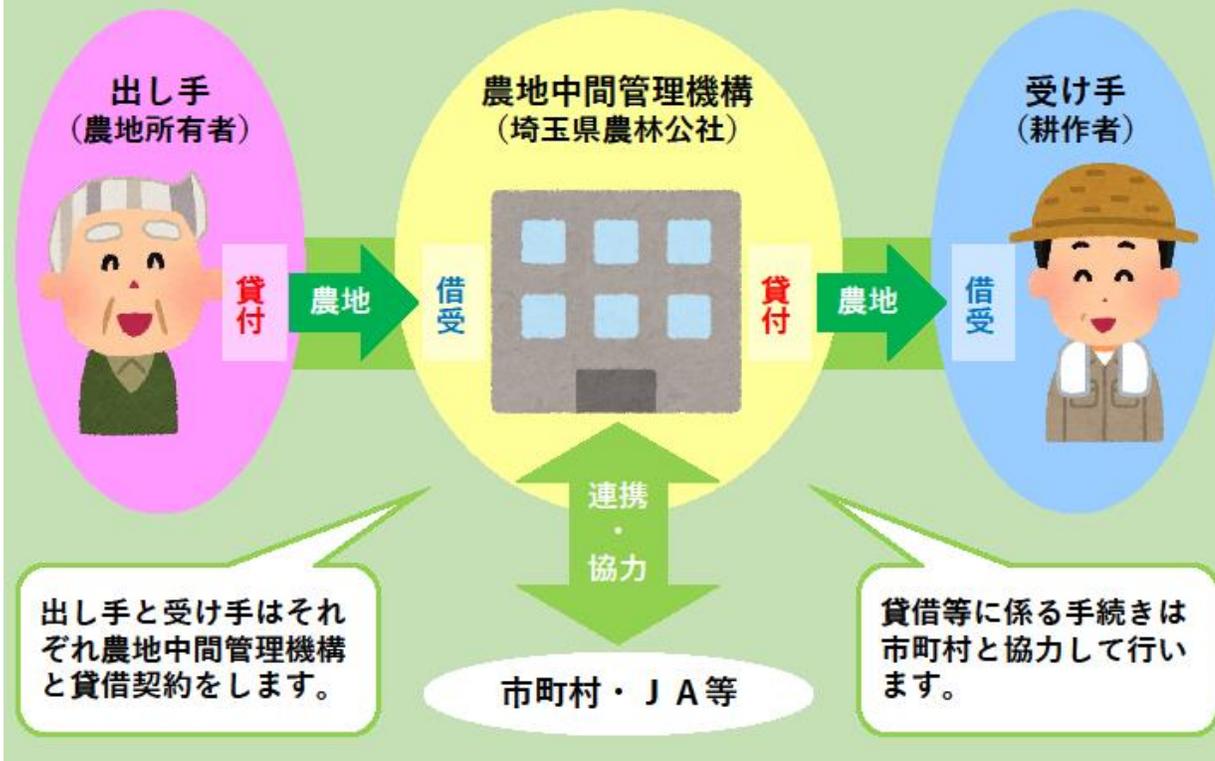
その他、名細、高階、南古谷、芳野、古谷、福原、川越、山田地区で合計42.4ヘクタール(再転貸含む)の農地について機構が借受け、地域の担い手・地域農家等に転貸した。

令和7年度については、令和6年度から取り組んでいる鯨井地区について、地域として機構を介した農地の貸借を進めており、今年度中に事業完了予定。

(面積:約60.0ヘクタール。令和7年9月末時点)

※農地中間管理機構とは…都道府県知事が各都道府県に1つに限って指定する公的機関のこと。埼玉県は公益社団法人埼玉県農林公社が指定を受けている。

農地中間管理事業の仕組み



12 多面的機能支払交付金事業

4 農地の保全と有効活用

(4) 農の多面的機能と環境の保全

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の活動への支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進する。また、これにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるとともに、担い手への農地集積の後押しにつながる。具体的には、水路の草刈りや泥上げ等、農村地域の共同活動を支援する事業となる。

○市内で活動する11組織

組織名称	活動開始年度	活動人数		
		農業者	農業者以外	合計
伊佐沼周辺田園環境保全組合	19	45	107	152
山田田園環境保全推進グループ	19	43	27	70
古谷本郷地区農地・水・環境美化サークル	20	52	61	113
大仙波農地保全組合	28	37	15	52
小堤地区農地保全環境組合	28	7	42	49
小仙波周辺農地保全組合	28	13	4	17
下小坂平塚田園環境保全維持管理組合	28	14	9	23
南田島農地保全組合	29	45	0	45
野戸池水系倉ヶ谷戸堰管理組合	30	36	30	66
石田本郷農地保全組合	30	17	0	17
芳野・古谷・南古谷広域協定運営委員会	30	868	4	872



水路のり面の保全の様子



水路の草取りの様子

●過去3年間の事業費(円)	
令和4年度支出額	41,379,675
令和5年度支出額	41,129,745
令和6年度支出額	40,497,705

【課題】

- ・農地の維持等に向けた取組は、農業者だけではなく、地域全体で取り組んでいく必要がある。
- ・農地集積、集約と合わせて取り組んでいく必要がある。

- 【令和7年度取組予定】
- 予算額 45,500,000円
- ・事業に関する相談対応
- ・交付金の交付事務

※上記組織は令和6年度に活動した組織

4 農地の保全と有効活用

13 農地の保全と有効活用 その他の取組 1/2

(1) 農業基盤整備

土地改良事業補助金

・令和4年度支出額	7,693,000円
・令和5年度支出額	8,649,000円
・令和6年度支出額	9,749,000円
・令和7年度予算額	9,500,000円

土地改良区や水利組合等が行う、かんがい排水施設や機械揚水機等の新設及び修繕に対して、予算の範囲内で交付する。

- ・令和5年度：7件
- ・令和6年度：14件

(1) 農業基盤整備

農業水利施設のストックマネジメント

農業生産基盤の長寿命化を促進する、効果的な支援を行うための検討を行う。水利組合へのアンケート調査を基にストックマネジメントの検討を行うこととし、令和5年度に市内の水利組合に対し農業水利施設の現況調査を実施した。令和6年度も前年度に引き続き、現況調査を実施し、農業水利施設台帳を作成した。

(2) 農業振興地域の農地保全

農業振興地域整備計画の推進

・令和4年度支出額	18,989円
・令和5年度支出額	—
・令和6年度支出額	330,000円
・令和7年度予算額	—

長期的に農業振興を図るべき地域の農地として、農業振興地域内農用地区域(青地)の農地保全を図っていく。

【農用地区域面積】

- ・令和5年度末：2,380ha
- ・令和6年度末：2,379ha

13 農地の保全と有効活用 その他の取組 2/2

4 農地の保全と有効活用

(3)市街化区域内農地の保全

都市農地の貸借の円滑化事業
・予算なし

生産緑地地区等の市街化区域内農地を保全するため、農地所有者と借り手である担い手との貸し借りの手続支援を行うしくみができている。

(5)生活環境改善と水質保全

農業集落排水処理施設の維持管理

農業集落における生活環境改善及び農業用排水の水質保全を図るため、農業集落排水処理施設の維持管理を行っている。令和7年度より川越市上下水道局へ事務移管。

(5)生活環境改善と水質保全

地方公営企業法の適用

農業集落排水事業について、資産を含む経営状況を的確に把握し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むため令和7年4月より地方公営企業法を適用し、公営企業会計へ移行した。
また、合わせて既に地方公営企業を運営している川越市上下水道局へ事務移管。

14 グリーンツーリズム整備推進事業

5 農業とのふれあいの推進

(2) グリーンツーリズムの推進

平成28年1月に策定された「川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられたプロジェクト。農業ふれあいセンターを中心に、伊佐沼や田園など周辺の自然的景観や農業とのふれあいをコンセプトとしたグリーンツーリズムを推進する。農業ふれあいセンターの改修整備、バーベキュー施設の整備、農園の整備、農産物直売所、キャンプ等の整備。

【主な取組内容】

○令和6年度

- ・キャンプスペース土地造成工事
- ・グリーンツーリズム拠点施設 民間活力活用運営検討

令和7年度に実施のキャンプスペース整備工事 イメージ図



○農業体験参加者数

年度	参加者数	うち市外
2	1,630	211
3	4,422	658
4	5,188	1,010
5	5,733	745
6	6,529	1,229

●過去3年間の事業費(円)

令和4年度支出額	136,316,722
令和5年度支出額	227,286,038
令和6年度支出額	88,992,240

【令和7年度取組予定】

予算額 313,953千円

- ・グリーンツーリズム拠点施設管理運営業務委託の進捗状況管理
- ・グリーンツーリズム拠点施設指定管理者制度導入の手续
- ・蔵inガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会の運営
- ・キャンプスペースの整備

【課題】

- ・集客が伴う魅力のある運営を行う必要がある。
- ・グリーンツーリズムの拠点施設として市内の農業に関する資源のPRを行っていく必要がある。
- ・令和8年度のキャンプスペースのオープンに向け、整備を進める必要がある。

15 川越市農業振興計画改定版の指標 1/2

(1) 毎年度把握できる指標

	指標名称	計画策定時	現状	目標	調査方法
1	農業産出額（億円）	70.2 （2020年）	66.0 （2023年）	100 （2027年）	農林水産省市町村別農業産出額
2	市（農業）ホームページアクセス数（件）	41,217 （2021年度）	103,525 （2024年度）	50,000 （2027年度）	農政課調べ
3	特別栽培農産物に認定された作物数（件）	12 （2021年度）	16 （2024年度）	30 （2027年度）	農政課調べ
4	農産物直売所の年間販売額（億円）	7.8 （2021年度）	8.7 （2024年度）	10 （2027年度）	農政課調べ
5	おいしい川越農産物提供店認定店舗数（店舗）	14 （2021年度）	26 （2024年度）	35 （2027年度）	産業振興課調べ
6	いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾生（5年間累計数）（人）	2 （2021年度）	5 （2024年度）	10 （2027年度）	農政課調べ
7	担い手への農地の集積率（％）	16.3 （2021年度）	18.0 （2024年度）	42 （2027年度）	農政課調べ
8	多面的機能を発揮する共同活動の田における実施面積割合（カバー率）（％）	55 （2021年度）	55 （2024年度）	60 （2027年度）	農政課調べ
9	農業体験参加者数（人）	4,422 （2021年度）	6,529 （2024年度）	7,000 （2027年度）	農政課調べ

15 川越市農業振興計画改定版の指標 2/2

(2) 3から5年に1回把握できる指標

	指標名称	計画策定時	現状	目標	調査方法
1	農産物販売額1,000万円以上の経営体数（経営体）	103 (2020年)	103 (2020年)	120 (2027年)	農林業センサス
2	有機農業に取り組んでいる経営体作付面積（a）	5,876 (2020年)	5,876 (2020年)	6,000 (2027年)	農林業センサス
3	サツマイモ栽培経営体数（経営体）	36 (2020年)	36 (2020年)	40 (2027年)	農林業センサス
4	1経営体当たりの経営耕地面積（a）	159 (2020年)	159 (2020年)	185 (2027年)	農林業センサス
5	農業を身近に感じる方の割合（%）	61.4 (2021年)	63.8 (2024年)	70.0 (2027年)	市民意識調査

※ 計画の進行管理にあたり参考とする統計値

	統計値名称	計画策定時	現状	—	調査方法
1	学校給食における地場産農産物使用割合（%）	24.0 (2021年度)	25.5 (2024年度)	—	学校給食課調べ
2	耕地面積（ha）	3,220 (2021年度)	3,200 (2023年度)	—	面積調査
3	多面的機能支払交付金の地域活動参加人数	770 (2021年度)	654 (2024年度)	—	農政課調べ
4	市外からの農業体験参加者数	658 (2021年度)	1,229 (2024年度)	—	農政課調べ